



幸せの確認
2009～2010
40代からの子育て
雑感
出会い
をかし
随想

幸せの確認

宮川浩一

早いもので、今年もこれが最後の瓦版となりました。振り返りますと、いろいろな事がありました。というのは何も今年に限った事ではなく、誰しもが昨年も一昨年もその前も…。いろいろあって当たり前です。

毎年年末になると振り返ってみて「いろいろな事があったなあ。でも何とか年末を迎えられて良かったなあ。来年も頑張ろう。」と締めくくりますよね。

私が思いますに、この締めくくり作業ってというのは意外と重要であって、例えば自分の存在感の認識でありますとか、存在価値の再確認でありますとか、「今年もいろいろ大変な事はあったけど、私は今も立派にここにいるし、来年も頑張るぞー！」みたいな一種の「存在の確認」という作業が年末には必要なのだらうと思います。

少し今年のいろいろを振り返ってみますと、今年は確かに例年にはないくらい数の「不景気」というキーワードを聞かされた年でした。本当に嫌というほど、うんざりするほど聞きました。政権交代の引き金までもなった不景気です。

弊社の属する建設業などにおきましては、「業界総倒れ」みたいな事まで囁かれる始末です。確かに世の中は不景気です。経済界だけでなく国としても、いままでのツケをどう処理していくか考えていかねばならない、相当の窮地であることも事実だと思います。新しい政治に期待するばかりです。

私は仕事柄、日夜お客様や取引先様、各種団体の方々とお会いする事が非常に多いのですが、様々な方々とお話の中で、当然お約束のように前述の「不景気」「窮地」についてのお話が出てきます。

勿論、人によってこの現在の環境の捉え方は様々で、大変勉強になるお話も聞かせていただけるのですが、どうもその方々の話の内容（というか方向）というのが、総じてよくメディアなどから耳にする一般的な暗い不景気というイメージとは少し違う雰囲気を感じられます。端的に表現しますと、「不景気」「窮地」=「不幸」ではないという雰囲気です。

- ＜お話の一例＞
- ・景気が良いっていうのも疲れます。追い立てられているようでゆっくり出来ない。
 - ・お金が使えなくなって、初めてお金がそんなに必要なものでない事に気付いた。
 - ・無駄使いが減って、本当に満足できるものが買えるようになった。
 - ・家族が仲良くなった。
 - ・不景気ですが、僕は元気です！元気が一番！

したが、高音が出ず苦労した。

子供達は音楽の授業に加え交響楽団との合同練習など学校を挙げての取り組みで、夏休み前には先生方と共に其々のパートを覚えていたので、友達同士で集まれば遊びながら口ずさむ歌は「第九」という光景も良く見られた。

いつもこの時期にある学習発表会も合わせて披露され、休日出勤の多い息子も主人と共にやって来た。「どうせおにいちゃん忙しいから、パパだけやと思う。」と言っていた娘は「えー！おにいちゃんきてるー。なんでやる。」と言いつつ、嬉しさを隠しきれない。

今年の後半は目まぐるしい程に始めての行事が重なった。一月から始めたお箏を八月に娘が通った幼稚園が二十周年を迎えられたお披露目の会で演奏させて頂く事になり、夏休みは遊び返上で箏の稽古に励んだ。先生と共に「はや瀬」という曲を演奏し、初めて振袖を着て本番を終えた。着物での演奏は経験がなく心配したが、小さなミスはしたものの大きな失敗もせずかなり自信が付いた様子。

夏という事もあり紹の振袖をどうしたものかと悩みつつ連日暑い母屋の蔵を整理し、義母が幼い時にでも袖を通していただろうか、薄水色地に大きな色とりどりの蝶が舞う紹の振袖を見付けた。お襦袢から帯や小物に至るまで一式揃えてきちんと保管されており、「おばあちゃんも天国で喜んでではるわ。」と娘に言う。「ほんまやなー。」と嬉しそうに袖を通した。

- ・景気が良い時に、よかった事ってありましたか？
- ・今までが普通なの？ 今が普通なの？

私の周りの方々は非常に元気です。少なくとも不幸ではありません。むしろこの不景気といわれる環境が「幸せを確認する作業」に役立っている感があります。私が今年一番勉強させていただいた事と言えば、この事かもしれません。

ほぼ間違いなく、不幸とは景気や環境などと連動して作られるものではないという事です。（派遣切りや首切りなど不幸と思われる状態はありますが、この辺りについては別の機会に論じたいと思います。）

今の気付きから今後の弊社、山庄の進むべき道も見えてきております。弊社は世の中の景気に左右され、不幸になる会社は創りません。いつも元気、いつも幸せを皆様にご提供いたします。

今年の締めくくりとしまして、私の大好きな弊社経営理念を書いておきたいと思えます。

「我社は空間創造を通して、まごころを提供し、お客様の喜びをわが喜びとする企業である」

来年も「まごころの提供と喜びの共感」をテーマに頑張っ参ります。変わらぬご愛顧を、何卒よろしくお願い申し上げます。

義母の実家は戦前から大きな貿易商を営み、義母が嫁ぐまで別邸として使用していた下鴨の家は、後に谷崎潤一郎の住まいとなり「潺湲亭」と名付けられている。

義祖母も着物好きで「潺湲亭」が日新電気の所有になり「石村亭」と改名後も時々使用しており、義祖母の90歳を記念してこの家で誕生日会がもようされた折も幼い息子を連れて参加したが、紅葉の庭に溶け込む様な渋い柿色の着物に、細い糸目で描かれた山水画の着物を着ており、すてきだなーと感動したことを覚えている。

そんな義祖母の影響か義母もかなりの着物好きで、蔵にある多くの桐ダンスにはしつけが付いたままの着物も残されており、これから益々着物に袖を通す機会の多い娘には有り難い宝の山的な場所となった。

夏に一度演奏を終えた娘は、11月末に行われた箏の発表会でもさほど練習に追い込まれずその日を迎えたが、娘に初めてのお稽古をさせるのにせめて使い方ぐらいは把握した方がと、軽い気持ちで共にお稽古を始めた私は、「お母さんより遅くに始められた方ばかりとご一緒だし、私も横で二箏を弾かせて頂くのでぜひ。」と先生の甘い言葉に出演を決めたものの、発表会二週間前になって、「皆さん暗記されました。」と言われ楽譜を見てもおぼつかないのにと焦りと緊張で、毎日箏との格闘をしながら前日の音あわせに参加した。



2009～2010

師走も駆け足で過ぎ去ろうとしているのに、震えるような“ピン”と張りつめた朝は未だに感じない日々。

（起床が遅い？緊張感がない？ そんなことは無い筈ですが、やっぱり暖化進行中！）

そんな事を考えてる間に12月も「アッ！」と言う間に“あけまして”ですが、長～い12ヶ月も一瞬で過ぎてしまい置き去りにされてはならぬと息を切らし、目を見開いて、真っ直ぐ前へ（平衡感覚がだんだんと不足気味であっちゃ行ったりこっちゃ来たり入れつつ）進んで参りました。“が”

反省勉強することはいつまで経っても後を絶ちません。（いわゆる死ぬまで！）しかし、飽くなきチャレンジ精神を持って何事にも目を逸らさずマッハ2010に向かって可能性を見つけに飛び立つ所存です。ご指導宜しくお願い致します。

今年一年本当にお世話になり有り難うございました。新年も宜しくお願い申し上げます。

感謝 檜田 勉

ご希望のお客様は!!

デザイン無料キャンペーン及び設計・現地見学会 ご希望の方は下記アンケートにお答え頂いた上、FAXにてご返送下さい。

氏名: _____

住所: _____

TEL: _____

FAX: _____



- ①設計・デザイン無料キャンペーン
 ②新築物件現地見学会



★ アンケートにお答えいただいた方には、この情報誌を毎月郵送致します。

氏名 _____

性別 _____

生年月日 _____

住所 _____

TEL _____

FAX _____

メールアドレス _____

職業 _____

★ 今後、あなたの知り得たい情報は何ですか？

1. 建築(住宅)に関する情報
 2. 建築(インテリアデザイン)に関する情報
 3. 外食に関する情報
 ・和食
 ・洋食
 ・中華
 ・その他()
 4. 文化、歴史に関する情報
 5. その他

()



瓦版

企画及び発行所

近庄グループ
株式会社 山庄

〒604-8811
京都市中京区壬生賀陽御所町77-1 山庄ビル2F
TEL 075-813-5800
FAX 075-811-5550
E-mail office@yamasyo.net
URL http://www.yamasyo.net

